

永祿二年古寫本

君臺觀左右帳記

小 引

- 一、東北帝國大學所藏本君臺觀左右帳記は、その奥書に見えたる年紀、永祿二年の書寫本と信ぜられ、今日まで知られて居る同書の古寫本中、書寫年代最も古く、且つその内容體裁共に、今は滅びた相阿彌自筆本に最も近かるべく考へらるゝ、貴重の一冊である。
- 一、原本は楮紙廿一枚繼、高七寸五分、長廿九尺七寸の卷子本であつて、内題外題共に失はれ今の外題「永祿二年古寫本君臺觀左右帳記」の文字は前所藏者狩野亨吉博士の筆である。
- 一、校刊に當りては力めて原本に忠實ならんことを期し、各行の字數を制限したるは固より、活字も五號、九ポイント、六號、七號等の各種を併用した。また末尾には奥書の部分を寫眞網版として掲出し、世にも床しい原本の様子を偲ぶこととした。
- 一、異體の漢字や變體假名の類は、すべて普通の活字に更め、唯、特殊の略字のみは、もとのまゝに従ふこととした。また原本では、卷頭の畫家列名の名字に、一々朱線が加へてあるが、これも省略することとした。
- 一、蠹蝕の甚しき箇所はそれ〴〵を以て示し、しかもその傍には、これに該當すべき辭句を、家藏の一本によつて註記して置いた。家藏本の書寫年代は、恐らく天保以前に溯り得ぬであらうが、その内容は殆ど全く東北帝國大學本と相一致する。
- 一、頭註は、皆、校者の試みたさかしらで、その施された箇所は、寫眞凸版とした繪圖面内の文字及び本文中、特別の注意を要する箇所等である。
- 一、原本の體裁及び内容に關する詳細のことどもは、昭和八年一月古典保存會が、その會員の間に頒布した、原寸大玻璃版横綴複製本の奥に附せられた、山田孝雄博士の精到周密なる解説を参照せられたい。尙又、美術史上に於ける君臺觀左右帳記の位地に就ては、不十分ながら、本誌第十三號所掲拙稿「高然暉について」の一節をも一讀せられんことを望む。
- 一、この貴重本の校刊を快諾せられた東北帝國大學に對して、甚深の敬意を表する。また七條憲三君の手に成る、鮮明の複製本を利用することによつて、校刊を容易ならしめられた、古典保存會の好意を感謝する。(脇本)

上

吳

曹弗興 吳興人 佛像於龍長

晉

顧愷之 字長康 晉陵無錫人 丹青筆法 造其妙

陳

顧野王 字希馮 吳郡人 草虫

唐

吳道玄 字道子 陽翟人 觀音

王維 字摩詰 開元初人物 山水

宋

徽宗 字人形 花鳥虫 宣和殿と申

李公麟 字伯時 號龍眠居士 舒城人 馬長佛像 羅漢山水人物

李成 字咸熙 山水

郭熙 河陽溫縣人 善山水寒林

徐熙 金陵人 畫花木禽魚蟬蝶蔬果

趙昌 字昌之 廣漢人 善畫花果折枝草虫

易元吉 慶之 長沙人 花鳥水禽 尤喜獐猿

趙令穰 字大年 丹青之妙 雪景汀渚水鳥

成宗道 長安人 上人物

張思恭 人物 佛像 彌陀

若芬 字仲石 曰二玉潤 山水西湖雲山諸峯寫

永祿二年古寫本君臺觀左右帳記

ノ唐モト

見ヨルモト

宋 南渡後

陳容 字公儲 自號所翁 福唐人 善畫龍松竹鳥

無準和尚 讚多道尺人物

法常 號三牧溪 無準之弟子也 龍虎猿雀 蘆雁 山水樹石人物花果折枝

馬公顯 善花禽人物山水

李迪 河陽人工畫花鳥竹石山水小景不迨

李安忠 居宣和畫院工畫花鳥走獸山水

蘇漢臣 開封人工畫尺道人物尤喜嬰兒

閻次平 山水人物牛

馬遠 畫山水人物花禽

梁楷 東平相義之後 善畫人物山水釋道鬼神

夏珪 字禹玉 錢唐人 山水人物

毛益 花鳥獸

王輝 錢唐人 道釋人物山水

樓觀 錢唐人 山水人物花鳥

馬麟 馬遠之子 人物山水花鳥

范安仁 錢唐人 善畫魚

陳世英 道釋人物

元朝

錢選 字舜舉 號玉潭 雲川人 善人物山水花鳥禽獸

顏輝 字秋月 江古人 道釋人物山水

孫君澤 杭人 善山水人物

上中

劉耀 リウウ 字耀卿 人物山水

盛懋 セイモ 字子昭 善山水人物花鳥

子明月山 シシツキョウサン 人物山水花鳥馬形花

張月湖 ケツコ 或作月壺 道釋人物

西金居士 セイキンコ 羅漢

任康民 ジンコウミン 山水人物

胡直夫 コチキフ 山水人物

張芳汝 チヤウフウニョ 山水人物牛

王季本 ワウキホン 人物花鳥

門無關 モンムクワン 道釋人物

柯山超然 カサンテウゼン 山水人物竹

明哲暉 ミンテツキ 鐵鏡 人物菓子

中

唐

戴嶧 タイタイク 善畫牛

周丹士 シユタンシ 佛像羅漢山水自然能出來候は御物成候

僧貫休 クワンキウ 字德隱 號三禪月大師 佛像羅漢

文同 ブンドウ 字與可 號錦江道人 善畫墨竹

蘇軾 ソシキ 字子瞻 眉山東坡先生作墨竹

柯澄 カテイ 長沙人工畫神佛

宋 南渡後

趙子澄 チヨウシテイ 字處廉 花鳥

趙伯駒 ハクク 字千里 善畫山水花禽竹石尤長於人物

米友仁 メイユジン 字元暉 元章之子山水烟雲林泉

楊補之 ヤウホンシ 字無咎 號逃禪老人 南昌人水墨人形

瑩玉礪 エイキョウツラン 西湖淨慈寺僧山水

李嵩 リスウ 錢唐人 道釋人物

馬逵 ハキ 馬遠之兄 山水人物尤果禽鳥

白良玉 ハクリヤウキョク 錢唐人 道釋鬼神

陸青 リョクセイ 山水風雨圖 師季唐 能出來候は御物にも成候

金

王庭筠 ワウテイイン 字子端 善山水古木

元朝

楊月澗 ヤウカン 善畫水墨花鳥龍虎

王淵 ワウエン 字若水 號澹軒 杭州人山水人物尤精墨花鳥竹石

王冕 ワウミン 字元章 會稽人能詩善畫梅萬蕊千花

張遠 チヤウエン 字梅岩 華亭人善畫山水人物學馬遠夏珪

道士蕭月潭 シヨウゲン 善白描道釋人物

王立本 ワウリッポン 花鳥人物

賴庵 ライアン 蓮魚龜

率翁 ソウウ 布袋人物よく出來候は御物にも成候

張伯供 ハクキョウ 佛像

張芳叔 チヤウホウシク 號竹屋道人 山水人物

高然暉 カウゼンキ 山水

中空山 クワクサン 道釋人物自然御物にも成候也

中上 張氷涯 花鳥鷹

戴嵩 牛

雲間徐澤 花鳥山水

中上 夏明遠 錢唐人山水人物樓閣 自然御物にも成候

定山

中上 李宗皇帝 人物花獸

陳珩 字行用 號此山 果子

諡法師 彌陀

檀芝瑞 蘭梅竹

米芾 字元章 山水古木松石

徐子興

中上 李堯夫 道釋人物鬼神

中上 丁野夫 山水人物花鳥

下

唐

下上 韓幹 長安人 畫馬

下上 建陽僧惠崇 畫鷺鷹鷺寒汀遠渚

下上 黃筌 字要叔 成都人 山水人物鳥雀龍水

宋

下上 蘇過 字叔黨 東坡先生 李子也 畫山水 鞍轡

宋 南渡後

趙孟堅 字子固 號葵齋 居士 善水墨白描 梅花 蘭水仙花 竹石

廉布 字宣仲 山陽人 畫山水 枯木叢竹

永祿二年古寫本君臺觀左右帳記

湯正仲 字叔雅 江南人 善畫梅竹松石 水仙

僧月篷 畫觀音佛像 羅漢 天王

僧子溫 字仲言 號日觀 又號知歸子 作水墨蒲萄

僧仁濟 字澤翁 玉潤之甥 墨竹梅

陳清波 錢唐人 多作西湖全景

趙子原 作小山 鞍竹

僧羅窓 西湖六通寺 與牧溪 畫意相侔

蘇顯祖 錢唐人工 畫人物山水 與馬遠 同時 筆法亦相類

元朝

趙孟頫 字子昂 號松雪道人 畫山水人物 馬形花鳥

趙雍 字仲穆 子昂之子 山水人物 馬花鳥

李衍 字仲賓 號息齋 道人 薊丘人 善畫竹石

李士行 字遵道 山水竹石

朱德潤 字澤民 吳郡人 山水人物

孟玉礪 吳興人 畫青綠山水 花鳥

胡庭暉 吳興人 繪同前

天師張嗣成 號太玄 善畫龍

僧明雪窓 畫蘭花

印陀羅 天竺寺 梵僧 人物 道釋

李仲和 人馬鷹

劉履 字垣然 汴人 善畫人物

雪潤 人物尤長 文珠

子庭 古木 菖蒲

松田 栗鼠 用田 同

錢永

默庵 牧溪再來筆跡亦同

衡陽綠首世 羅漢

孫知軍 栗鼠

楊枝 梅

蔡山 羅漢

一卷道士 人形

迦羅蜜 梵僧像人物

姜道隱 牛

老融 牛

猪者 老融弟子牛

張思訓 人物佛像

陸信忠 佛像十王

四明普悅 佛像

啞子 觀音佛像

馮大有 蓮荷龍

李聞一 逸イ 佛像十王

陸仲湖 忠イ 佛像

李万七郎 佛像

陸王三郎 佛像

承訓 佛像人物

子良

謝堂 號恕齋松竹石蘭

李堯民 小景

滕王元嬰 蜂蝶

紅眉 人物

仲仁 號華光梅

松齋 花光弟子梅

竹齋 號筠漢梅

李伯仲 觀音

劉伯 佛像人物

劉朴 人物山水

頂雲 蘭

李瑛 李安忠之子 繪筆法同

夏森 夏珪之子 筆法同前

張德麟 山水鳥

夏永 山水樓閣 夏明遠ニ似タリ

劉焯 山水人物 馬麟ニ似タリ

京都張璟 山水 闕次平夏圭ニ似タリ

仁宗皇帝 人物馬 宋人

高宗 宋南渡後人 山水人物

張良市 蓮荷魚 李迪ニ似タリ

李立 山水人形 馬遠ニ似タリ

李公茂 李安忠之子

君臺仁 樓閣

塞ハ塞又
ハ塞ノ説
照ハ照ノ
説ハ照ノ

盛照 セイシヨウ 字天錫 テンシヤク 京口人 畫人 畫竹 石窠木

高文進 フンシン 蜀人 山水 照ニ似タリ

周文矩 フンク 道釋人物 車馬 樓觀 山林 泉石

朱銳 チイ 河北人 山水 人物 宋南渡後人

王景辰 ケイシン 水墨 梅

馬德甫 トクホ 禽獸

碧雲 ヘキウン 人物

雲石陸氏時中 リツシキ 龍所翁ニ似タリ

王珪君璋 ケイケン 花草虫

番陽嚴凱士元 ハンヤウケンカイ 詩作 人馬 月山ニ似タリ

永嘉章 ヤウカン 月坡 人物 龍眠ニ似タリ

顯宗皇帝 ケンソウ 人馬 獐鹿 墨竹

下

飭次第

一 おしいたに三幅一對五幅一ついかゝる時はかならず

三具足をくへし折卓ををきて繪によりて

立つふせつすへし燭臺花瓶香爐

香匙臺 香匙火箸 香合 同脇花瓶盆卓

いづれにても對したる物にすわるへし

一 諸飭は燭臺一對花瓶一對あるへし香爐

香合は同前たるへしこれを五かきりとも云

胡銅青磁の閒いづれも同

永祿二年古寫本君臺觀左右帳記

一 四幅一對の繪かゝる時は三具足をは取のけて

中に花瓶にても香爐にても一をくへし

わきの花ひんはそのまゝをかるへし

一 一けんおしいたには二ふく一つのゑかゝるへし

中に花ひん一にてもくるしからす一つい花瓶

もしかるへしよこゑなどはかゝらす獨幅とて

よこゑよりはたけなかくて本そんなどのとく

なる繪ありこれはかゝるへく候

一 小ゑ横ゑのたくひは座敷のやうにより可然在

所にちかいたなをきてその上にかゝるへく候

小かへの上てんしやうのきわに候二ちうなげ

折しにきかをうちてかゝるへく候たゝの所

にかくる事は本ならず候

一 四季の四ふく八景の八ふくの小ゑよこゑなどは

各小かへにかゝるゑにて候當時おしいたにくみ

をなかくのへてかゝり候事見くるしく候又大なる

八景の八幅などはかへにかゝるへからすたとい

押板候はす共かけ候て置おし板などををかる

候也 風原は おし板のまへてんしやうのふちにかゝる

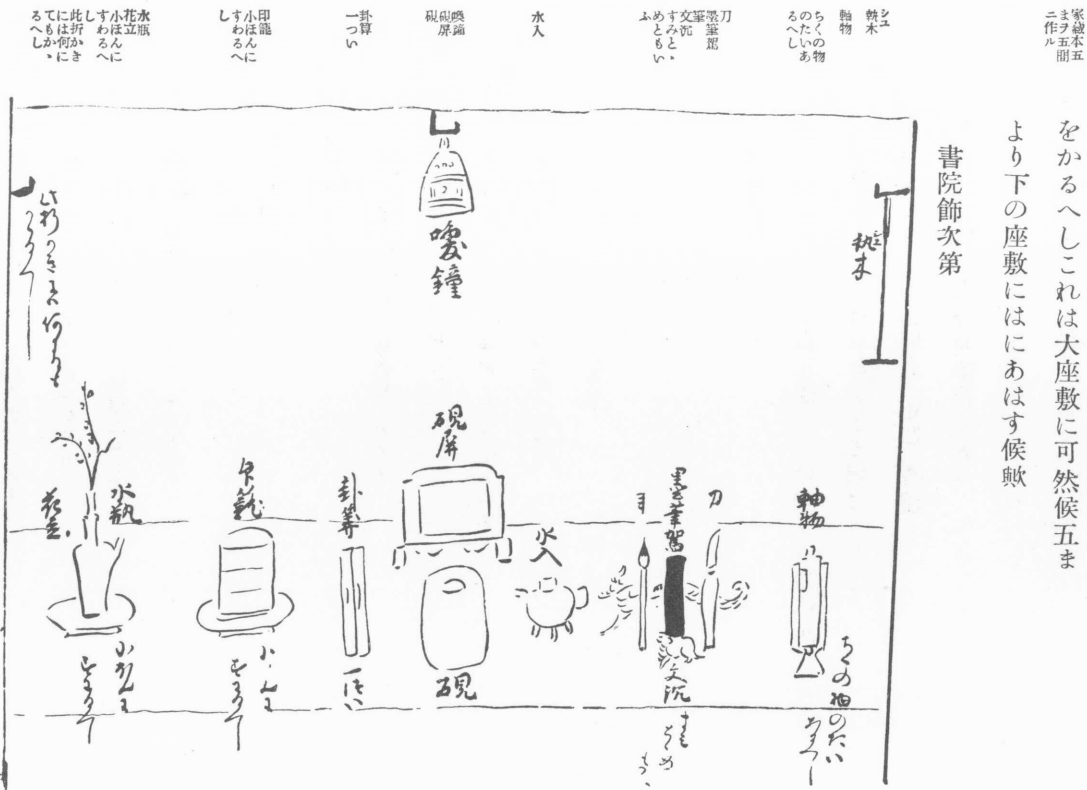
へしひとこまいほとをきてかゝるへく候小さ

しきまてもしかるへく候又床の天井ひる

ゑんの天井にもかゝるへく候也

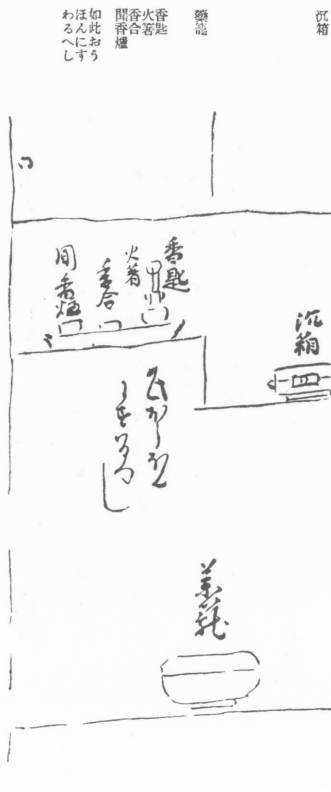
一中央の卓は押いたのまへまなか斗の
 けてたつへし上には香爐と薬器と二色
 をかるへしこれは大座敷に可然候五ま
 より下の座敷にはにあはず候敷

書院飾次第



書院の
 飾り

書院のかさり此分本たるへく候このほかに
 物のかすをりやくし候てかさり候書院あまた
 所候時は花を三へい又は石のはち三にても
 二にてもをかれ候て可然候上には喚鐘にて候はす共
 つり香爐なども可然候はしらかさりにても何にても
 取あわせてかゝるへく候くわんせうのかゝり候時は執
 木候はては不可叶候つりかうろうのかゝり候時は
 しゆもくかゝり候ま敷候何にてもくるしからず候
 一板かさはり書院のほかにしせん床なと
 にはかゝるへく候押板違棚にはかゝるへからず候
 書院のはしらも面にはしかるへからず候はしら
 の内の方にかゝるへく候也



違棚のかさり如此又

一上の重に建蓋同臺盆にすわるへし次の
 重に壺小盆にすはるへし下の重に食籠
 一上の重に盃同臺 盆にすはりても又すはらすとも
 よしくるしからず

膝心懸器
ふくろに
入ておほ
るにか

花たつへ

花瓶小盆

鏡家
象眼懸器

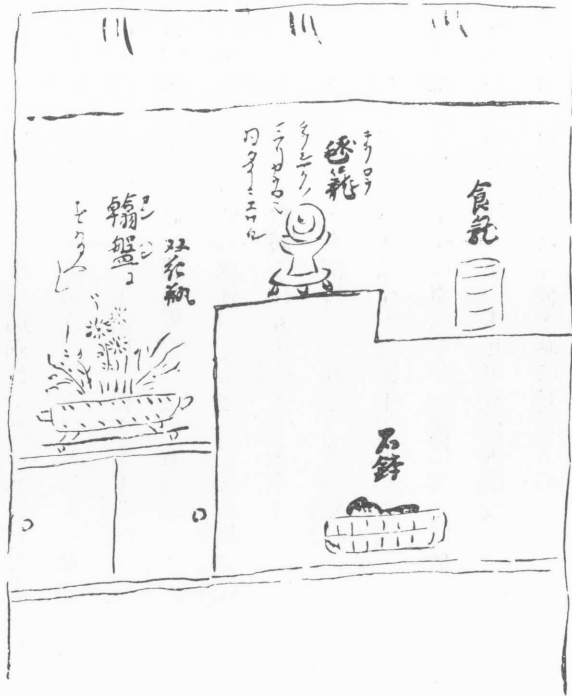
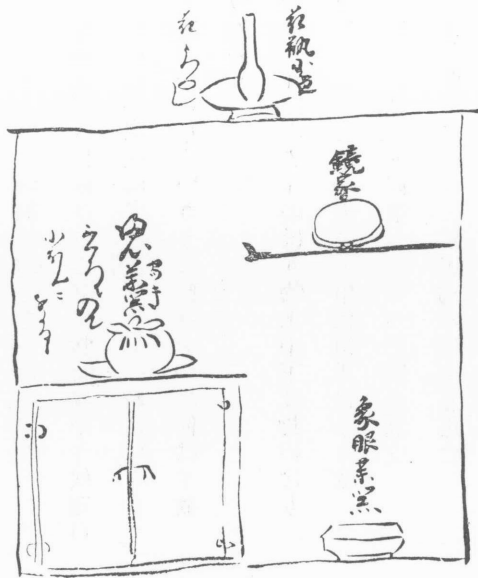
双花瓶
筒盤に
しはるへ

キワロウ
チウシヤ
カウマワ
山カウロ
同タイニ
スワルニ

石鉢

食籠

永祿二年古寫本君臺觀左右帳記



次の重に湯瓶下の重に骨吐標子豆ス
などのるいをとりあわせてをかるへし各堆紅
堆朱のほり物なり

重食籠

やわんち
六小ニ
方盆

建蓋六
中二大海
盆

御ちやのゆ此ふん水さしのそはに火攪としゆる
のひけにてゆいたるは、きと二色たなのすみなたて、
をかる、水こほしはたなにはをかれすふろのひたり
の方のた、みの上にあり釜すゑと云ていかにもひらく
としたる胡銅のはちを、かれてその上にもひらく
ちやわんなどを水こほしにをかる、なり夏冬



此ちかいたなは紫檀 花梨 象牙などにてつくり
たるたな也上には花瓶に花たつへし此たなの
上に小ゑよこゑかゝるへし

三五

□てかはりはなし胡銅の物とちやわんの物といつてもをきあはせられ候ひさこ立は當時はやり候細口のちやわんの花瓶にて候蓋をきもつねに候いにて候めつらしくいさうに候物をかれ候はず候一彫物之事

盆香合其外いろ／＼のほり物上中下は物のなりのめつらしきを第一の上と申候但手により候

□成か作の剔紅堆紅第一たるへく候大荔支本マ、と申香合世上にまれに候無爲の時は万疋に

定たる物にて候今も可爲同前候哉盆は角ひしなと大切にはたをきちやうめんにはり又わちかへなとほり候てそとくり／＼上品にて候香方盆方

盆大切にて候小盆に歸花重寶にて候香合は

大小ともにをき物に成候へともさい／＼の用に□いさき香合可然候これも手によりゑやうに

より上中下あるへく候口一寸五分二寸の剔紅のゑやうおもしろきは今も三四千疋可然候哉

歸花藥器これ又中央の卓にをかれ候はて不叶候

無爲の時は五千疋今も三千疋可仕候大荔支

手の香合花鳥なとほり候て藤の見なりの

香合あるへしこれ又重寶に候臺堆紅

まれに候重寶にて候つねに堆朱手のたいは

おゝく候金系のくり／＼の臺は重寶候へと

無爲の時は千五百疋の物にて候桂漿の臺も手のふかき花鳥蛟龍カワレウなとほり候は可然候手あさきは常にあまた候

剔紅 色あかし地に水わちかへひしなとをいかにこまかにほりてその上に屋躰人形花鳥はかり色々ほり候を云也

堆紅 色あかし地にきうるしほりめに黒かさね一又は二もあり手ふかく花鳥をほりたるを云也花斗ほるもあり

堆朱 色あかし地きうるし手あさくしてほりめにくろきかさねなしたゝあかくぬりあけたるを云也但堆紅斗の堆朱堆朱斗の堆紅と云事あり

金糸 色あかし地きうるしほりめふかくほりめにきと赤とすち十すち斗かさなるを云也一段と手ふかし

九連糸 同前手あさくかさねすくなし
黒金糸 色くろし手いかにふかく赤とくろきかさね十すち斗あり

堆漆 色あかし金糸のどくして地までほりとをさすくり／＼にあり

紅花綠葉 これは花鳥をほる花鳥をは赤く枝葉をはあをくぬりあけてほる也

桂漿 色くろし地きうるしほりめにくれないのかさね一すち又は二すちあり花鳥くり／＼色々あり又地をくれなぬにぬりたるもあり地くれなぬと云又剔紅のどく地にあかく水ひしわちかへかうしなとほりて上に屋躰人形花鳥なとほりたるけしやうありこれは子細あり龍山と云

犀皮 サイヒ 色くろしほりめ手あさくほりめひろく
かさねきとうすあかくあり花鳥をはほらす
つねにくりくにおし松のかわの色に
似たり松皮ともかく也

堆鳥 ツイウ 色くろしほりやうは桂璋のとし地まで
ほりとをさすして地もくろしくりくにおし

存せ ゾン 色くろきもありあかきもありちきんの
とくほりたる物也まれに候

作は張成第一上也楊茂第二周明同

一 胡銅之物

事はす候
ニハ事候
アハ事候
アリ

これは何とも可申事はす候公方様御物には三具
足花瓶などに名物御座候へともつねの世上に今
ある物共にて候間不及申和漢の見やうは其物に
よりにて口傳ならては難申候紋のある物はやすく候
無紋の物大事に候歟

紫銅宣旨銅は所々に金ましり候

一 茶碗物之事

青磁 セイジン とはあをきちやわんの物名也

白磁 ハクシ とはしろきちやわんの物名也

鏡州碗 ニョウシウワン とはしろくうつくしく紋こまかにあるちや
わんを云也

瑠瑠 ルル つねにくすりのひよきたるを云瑠

定州ひよきと云事上々には御用なし

たゞ青瑠瑠と申

白ちやわんにはくにて色々紋ををしたるあり

たゞはくおしのちやわんと云

永祿二年古寫本君臺觀左右帳記

一 土之物

曜變 ヨウベン 建盞の内の無上也世上になき物也
地いかにもくろくこきるりうすきるりのほし
ひたとあり又き色白色こくうすきるりなどの
色々ましりてにしきのやうなるくすりもあり
万疋の物也

一 油滴 ユテキ 第二の重寶これも地くすりいかにもくろく
してうすむらさき色のしらけたるほしうちそとに
ひたとありようへんよりは世に數あまたあるへし
五千疋

一 建盞 ケンサン ゆてきにもおとるへからすからす地くすり
くろくしろかねのよくきんはしりておなしく
ゆてきのとくほしのあるもあり三千疋

一 烏蓋 ウカイ たうさんのなりにて土くすりは建盞と
同物なり大小あり代やすし

一 籠蓋 カウガイ 天目の土にてくすりき色にてくろき
くすりにて花鳥いろくの紋あり千疋

一 能皮蓋 ネイガイ これも天目の土にてくすりきにあめ
色にてうすむらさきほしうち外にひしとあり
代やすし

一 天目 テンメ つねのとしはいかつきを上とする也
上には御用なき物にて候間不及代候也

一 葉茶壺事

昔より重寶共方々に其間あり公方御物にも
御座候へとも御かさりには不出候哉さのみ沙汰なく候
名物おゝ聞及候へ共當時のやうに代過分
には不及承候

一 抹茶壺事 マチャウホ

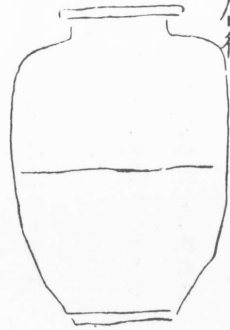
能皮子多
クハ獸皮
ニ作ル

笛子
るてい



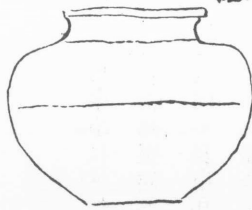
おち

大肩衝
きかたつ



大肩衝

大盛海
丸



大盛海

ついでほ
すいほう
ろとも
ちの
浦



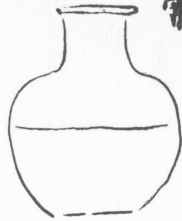
ついでほ
すいほう
ろとも
ちの
浦

ろてい



ろてい

丸茶



ろてい
ろの
水滴



てかめ
ろふこ

飯銅
へうた
銅



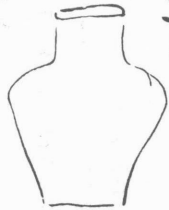
飯銅

茶
そん
な



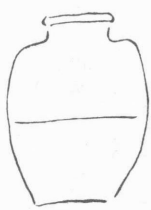
茶
そん
な

せし
ユ
桶



せし
ユ
桶

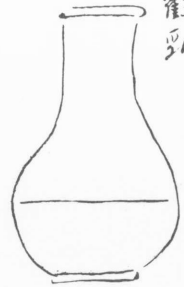
ひち
な
つめ



ひち
な
つめ

鶴頭ツルカビ

鶴頭ツルカビ



此つほのゑつおよそ覺候分しるし候さのみ此

ほかにはへちになりあるま敷候歟同つほの

なりにてすこしつゝのちかいはいつれも

あるへく候

一 壺いづれも置物にをかれ候時はふくろに入なからも

可然候又ふくろに入候はてもをかれ候かならず盆に

すはり候てをかるへく候

一 ふくろのをの事むすひめまへにむかふへく候也

をのさきのふさのあるかたうしろへ可成候

一 銅雀臺のかゝみとうしやく臺のかはらのすゝり

常くわんの物にて候かゝみはいかにもよき胡銅おもて

に金銀瑠璃など付候てにしきのとくに候まれなる

物にて候柱かさりに可然候すゝりもつねにあるもの

にて候

一 硯は石眼第一にて候端溪石もおとり候はす候其

外石色々おゝく候

一 硯屏石屏の大なるは書院にて候はす候共

床又は違棚チカヒのそはなともをかれ候

永祿二年古寫本君臺觀左右帳記

口置モト
ノマ・タリ
ノサ・タリ
ハ・タリ
ト・タリ
ア・タリ
リ・タリ

一 大なる箱の具具すりたり又別金ほりたるなどは

たゝも置物にをかれ候座敷によりかたゝの

すみなとに可然候シヤウヘン鞭などもおなし

一 喚鐘も臺をこしらへて座敷によりて置候也

一 碁盤將碁盤 双六盤各同前

一 硯文臺料紙短冊を置候て文沈をゝきて

可然在所にをかるへく候これみな本かさりの

うちにある事にて候

一 象眼サウカンの物重寶にて候

一 七寶瑠璃同前に候當時事外沙汰なく

象眼にもおとらす候常くわんの物にて候

一 晝ツラカウ藁と云て名筆の繪共をあつめてさうしに

して金欄にて表紙をしてちかいたなにか

れ候ちくの物をも方盆にすはり候てをかれ候

事候又代々集なともをかるゝ事候

一 火鉢は十月朔日よりをかれ候三月の晦日に

とりをかれ候臺にすはり候て火箸を

下にをかれ候いつれもたてすみあるへし

御用次第に火をゝかれ候

右此條々不實候へ共依所望思出

次第にしるし候不可有外見候也

永正八年辛未十月十六日 真相(花押)

ニセハン

辛未年

永正八年辛未十月

源次吉繼(花押)
ニセハン

此一巻源次令所持之則

相阿彌自筆之本也以一

見之次寫留者也可祕

于時

大永六年十二月

圓深

新紙は白唐昏本也たかさは

此本たけ也唐昏のうらあと打也

表昏は打曇軸は檳榔子

木也昏のつき目に相阿判

一々に有也

于時永祿二孟春吉日寫之